

# 日本海スルメイカ漁場調査

(抄 録)

今村 豊・黄金崎 栄一

2001年4月～10月に試験船東奥丸(140トン)及び試験船青鵬丸(65トン)でスルメイカの漁場調査等を実施した。調査は4、5、6、8、10月の計5回行ない、6月の調査では210尾の標識放流も行った。

## 沿岸域におけるスルメイカ

2001年本県日本海沿岸に来遊したスルメイカは、例年並みの5月下旬(小泊は昨年より1日遅い5月27日・三厩は5日遅い5月28日)に初漁がみられた。日本海主要港(深浦・小泊・下前・小泊)では、漁期前半である6～7月に順調な伸びをみせ、90年代以降最低の水揚げ量となった前年の約2倍の6,390トンとなった。

日本海で主に漁獲されるスルメイカは、秋季発生系群である。我が国の秋季発生系群の漁獲量は、90年代前半は13～15万トンで推移していたが、96年に増加し17.7万トンと90年代では最も多い漁獲量を記録した。しかし、98年には10.8トンに減少し、99年に14.0万トンに増加したものの、2000年には再び11.5万トンと減少した。2001年は12.1万トンとなり若干ではあるが増加傾向に転じている。

## 沖合域におけるスルメイカ

本県における日本海沖合のスルメイカの水揚げは、中型いか釣船による八戸港への水揚げ(一部太平洋の漁獲物含む)で、2001年漁期(7月～翌年4月)の水揚げ量は24,472トンとなっており、前年同期の水揚げと比較すると104.6%(前年23,404トン)で、ほぼ前年並みとなっている。

---

発表誌：平成13年度いか釣漁場開発調査資料27号及び平成13年度外洋性イカ(スルメイカ・アカイカ)に関する生物測定・標識放流・海洋観測結果基礎資料集 青森県水産試験場